

本通信をご覧の皆様へ

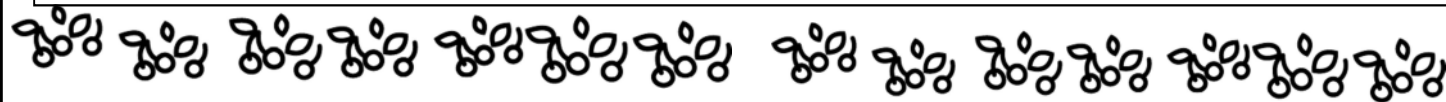
2月「なんでもおしゃべり会」のお知らせ

2月のおしゃべり会ですが、今回は初の祝日開催をします。いつもは、平日に開催しているのですが、やはりどうしても仕事があつてなかなか顔を出せないという声もあり。また、「子どもがいて参加できない」という方のために、今回はららんスペースも解放して、お子さん（利用児童も兄弟児も含む）との参加もOKということにしたいと思います。（※ただし、恐れ入りますが職員配置のサービス提供はできないため、各保護者の管理下にて参加となります。ららんにあるおもちゃ等は何をお使いいただいても構いません。）きら利用者のご家族の皆様も、きら開所日ですのでぜひご参加ください。

日時:2月11日(木) 午前 10:00~12:00

場所:いとるの家はなれ 市民交流スペース&ららんスペース

お待ちしております。



リレーエッセイ

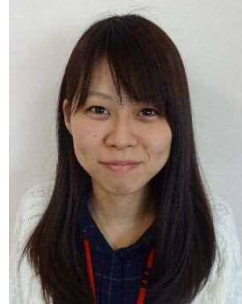
毎月お楽しみ『リレーエッセイ』！
普段は見えない職員の「新たな一面」がのぞける社外社内ともに人気のコーナー♪
今回は、「生活介護事業所きら」支援員の笹川（義）と、「放課後等デイサービス事業所ららん」の矢澤です。

あけましておめでとうございます。新年になり、何年ぶりかわからないくらい久しぶりに、今年は初詣にいきました。とってもさすがに元旦から動きだせるわけもなく、ようやく近所の神社に到着できたのは、3日の午後になってからでした。

おどろいたのは、正月の終わりかけにもかかわらず、予想外にたくさんの参拝客がいたこと。こうして毎年、世間の皆様はしっかりと一年のはじまりを迎えて、清しく正月を過ごされていたんだと、なんだか感動してしまいました。そんな風に、久しぶりに初詣に行くことができ、おみくじは末吉で、家内安全のお守りなんかも買ったりと、初詣を終えた頃には自分の中によくわからない達成感が生まれていました。根拠はないけど、今年はきっといい年になるはずですよ！皆様にとってもよい年となりますよう、そして今年1年どうぞよろしくお祈りいたします。笹川 義智



「三匹のやぎのがらがらどん」
今でも私の大好きな絵本の一つです。保育園の年長のお遊戯会では秘かに「大きいやぎのがらがらどん」役を担っていた私でしたが、3月生まれで一番背が低かったためか「小さいやぎのがらがらどん」に選ばれました。



当時、この絵本を大好きなS先生が何度も何度も読み聞かせをしてくれたので、この絵本が好きになったのでしょ。寂しい気持ちの時やどうしたらよいか分からなくなった時に一緒に考えてくださったS先生。そんな先生と巡り逢え、自分もまた同じように子どもたちに返していけたら、そう思い大学では保育を学びました。厳しさも含め優しさで溢れた今でも理想の先生です。

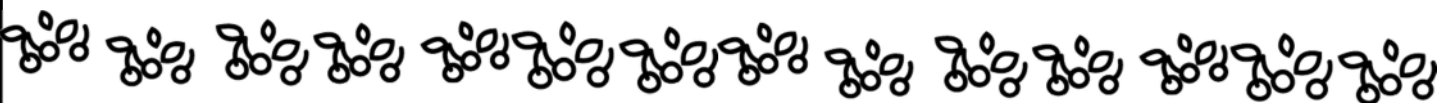
理想を胸に、ららんで経験したことが子どもたちの心に少しでも残って貰えたらと思いながら日々一緒に過ごさせて頂いています。そんな矢澤ですが、これからもよろしくお祈り致します！

矢澤 優佳

来月は「生活介護事業所きら」支援員の家塚と同じく「きら」支援員の岡本です。



お楽しみに！！

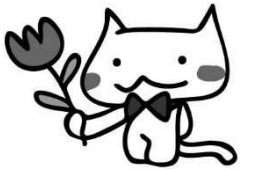


発行者：社会福祉法人みんなていきる 障害福祉事業部りとるらら通信に関するお問い合わせ先：事業部代表 TEL025-542-0170（担当：久保）

いとるらら通信

(社福) みんなていきる
障害福祉事業部りとるらら
発行日：2016年1月

新年あけましておめでとうございます。今年は本当に暖冬で、年末年始も全く雪に悩まされなかった毎日です。最近ぐっと冷え込み始め、やっと雪景色が広がるようになりましたね。「雪は生活苦」とも言いますが、その反面山の雪景色や子供たちが雪で遊ぶ姿には趣があり、やはりここ新潟の四季の豊かさは素敵だななんて思ったりもします。ただ、くれぐれもスリップ事故には注意ですけどね！



☆グループ新年方針説明会のご報告☆

私たち(社福)みんなていきるは、「大島グループ」という企業グループの中に所属しています。この「大島グループ」には、保険会社や料亭や新聞社など様々な職種の企業が所属しており、それぞれの企業が協力することで互いの向上を図っています。

そして、今月4日には毎年行われる「グループ新年方針説明会」が行われました。説明会では、当法人理事長でもある大島誠代表が新年の方針説明をするともに、各会社が活動報告やPRをします。昨年はこの方針説明会でアールブリュット事業の実施をPRし、協力を呼びかけました。

そして、今年とはいうと、なによりトップバッターとして「Little Rave Sour」がオープニングの幕を開けさせていただき、皆様にお披露目となりました。この「Little Rave Sour」は、昨年りとるの感謝祭にて誕生した「りとるバンド」が、正式に法人のレクリエーション活動として動き出すようになったバンドです。また、バンドによる演奏の後には、「生活介護事業所きら」がPRタイムをいただき、雑貨製品の紹介と会場での販売をさせていただくことが出来ました。



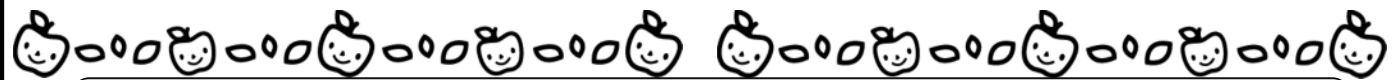
まだ現時点では、りとるららとして「グループの利点をこれから活用してゆこう」という段階なのですが、こうした異業種の企業との繋がりにとはとても大きな可能性があると思っています。製品販売先の広がり、専門業種への体験活動、様々なコラボレーションに未来がワクワクして見えます。今回の方針説明会の様子は、大島グループの交流ポータルサイト「OSHIMAX!」(URL:oshimax.jp)にアップされております。こちらはオープンサイトで、どなたでもご覧いただけますので、ぜひ片桐事業部長率いるバンドの姿などをご覧ください(*^。^*)

さらにもうひとつご覧いただきたいものがあり、お知らせします！！新潟県では、労政雇用課が若者雇用の就職活動応援プロジェクトとして、県内企業の動画を「YouTube」で配信しています。そして今回、当法人もその紹介動画を制作していただき、先日配信が開始されました。障害福祉事業部からは、「放課後等デイサービスにこ」の様子が映っております。興味のある方は、以下のURLか、または新潟県のHPからご覧ください☆

URL <https://www.youtube.com/watch?v=blrshTAPLDM>



社会福祉法人
みんなていきる
— お互いを感じながら生きていける社会 —



【研修】事業部内 ABA 研修やっています！

今回は、事業部内で行われている研修を1つご報告します。

今年度は、年間を通して「ABA 研修」を行っています。御存じの方もいるかもしれませんが、ABA とは Applied Behavior Analysis の略で、日本語では「応用行動分析」と言います。とっても簡単にいうと、あるひとつの行動を見る際に、その前後の環境や相互作用を捉えて分析する考え方のことです。そうして分析することで、その行動が生じる理由を推測し、行動そのものをよりよい行動に結びつけていけるようにするために、様々な環境や相互作用を再設定していく手がかりにするのです。

当事業部では、上越教育大学の加藤哲文先生を講師にお招きし、毎月1回の実施として、年間で継続して取り組んでいます。研修では、ご協力を依頼した利用者の方の日々のデータをもとに、加藤先生の指導を受けながらよりよい支援になるよう学んでいます。正直なところ、日々の支援現場の中で行動記録データを取り、指導を受けた事を実践に変えていく努力はとても大変です。ですが、この数カ月の中で、対象者の方への支援側の関わりは確実に変わり、その方の過ごし様子もとても落ち着



いてくるという確かな変化を感じています。今月号の片桐副理事長コラムにもありますが、行動障害と言われる方は、本当はご本人が困っていて、結果的にその行動につながっているが為に、「虐待」リスクも高いというのが事実なのだと思えます。「虐待」にはなっていないくとも、支援現場では毎日「本当にどう支援すればいいのか？」と悩み四苦八苦しています。だからこそ、こうした研修を地道に続け、少しでも支援側の理解が進むことで日々の現場がよりよい過ごしの場になればと思います。

オープン放デイ実施報告

今年度、上越市内の放課後等デイサービス事業所では、初の試みとして「オープン放デイ」という取り組みを実施しました。目的は「就学前からのスムーズな移行」を図れるようもっと学齢期の放課後等デイサービスを気軽に見に来ることが出来る機会を作るため。様々な学校がよく「オープンスクール」を行うのと同様の試みです。

これまで数年来に渡り障害を持つお子さんの放課後支援をしてきたりとするのですが、毎年のように3月頃になって「4月からの放課後はどうしよう！」という方々に会い、その都度「学校選択と同時に放課後の過ごしを検討して欲しい」と訴えてきました。その思いが実になり、市内の関係機関が検討協力して、少しずつですが未就学～学齢期への引き継ぎ体制が出来てきていることを感じています。今回の試みは、残念ながら「ららん」「にこ」とも来場者が少なく、開催のあり方を含め来期への課題は残りましたが、それでもこうした取り組みを実施することができて良かったと思います。来年度は更により機会になるよう頑張りたいと思います。

ありがとうございました

明治製菓ホールディングス様では、株主の方のご好意により、株主優待品の送付に代わり同等品を福祉団体へ寄贈するという「株主優待寄贈制度」を実施しておられます。特に全国の障害のある児童支援施設へのたくさんのお菓子寄贈をされており、当事業部の児童支援の現場では、数年前から何度かこの寄贈品をいただく機会がありましたが、とてもありがたいことに今年度もたくさんいただくことができました。

先月はクリスマス等のイベントもたくさんあったため、早速利用児童の皆様にプレゼント☆みんな甘いものは大好きなので大喜びです。

受け取ったお菓子を片手に嬉しそうな顔で、ハイポーズ☆
明治製菓様、株主様
どうもありがとうございました。



強度行動障害のある方への支援のあり方について

社会福祉法人みんなていきる
副理事長 片桐 彦彦

昨年10月17日から21日にかけて、「新潟県強度行動障害支援者養成研修」が長岡市で開催されました。この研修の主催は新潟県になりますが、事業の委託を私ども「みんなていきる」と新潟市の「社会福祉法人新潟太陽福祉会」と分担して実施することになりました。この手の研修で県が委託を二つに出す、というのは結構珍しいこととして、県の調査で「強度行動障害支援者養成研修」受講希望を取ったところ、なんと3年間で900人も受講希望がありました。3年で900人ですから1年に300人の行動障害支援者を養成しなくてはなりません。これは大仕事だということで、運営を二つに割って、研修を実施しようということになりました。

この研修のベースになっている研修は「行動援護従業者研修」という研修なのですが、カリキュラムは非常によくできていて、しっかり受講すれば一定のレベルまで強度行動障害の方の支援ができるようになりますと断言できるレベルの内容です。ですがこの研修は悲しいかな「ヘルパーとして行動援護に従事する人」のみを対象にしていたため、日中活動や入所施設、グループホームや放課後等デイサービスの従事者、相談支援専門員は受講対象になっていませんでした。

私としては「行動援護研修」のような行動障害の方のための研修はヘルパーに限らず、全ての分野、もっと言えば特別支援教育に携わる方なども受講できるようになればいいとずっと思っていましたし、そのことをずっと国にも訴え続けていました。

そんな思いが通じたのかどうかはさっぱりわかりませんが、平成27年度からカリキュラムが一掃され「強度行動障害支援者養成研修」にリニューアルされました。同時に行動援護のカリキュラムも統合され、行動障害に関わる方々が全ての分野においてナショナルフレームとして共通の研修を受けることとなりました。受講すれば施設に一定の加算が入ると行った「研修を受けると施設の収入が上がる」仕組みにしているため、施設経営者側のモチベーションにも配慮してあります。(これって嬉しいと思うかもしれないけど、とっても大事なところなんですよ)

この研修に使用するテキストですが「強度行動支援者養成研修(基礎・実践)テキスト-行動障害のある方の「暮らし」を支える-」という本が中央法規から出版されました。私も監修と一部執筆で関わりましたが、研修用のテキストのみならず、行動障害のことを一から学んでみたいという方が最初に手に取れる「読み物として面白い一冊にしよう」というコンセプトで製作に入りました。事例やコラムを大量に掲載し、表現も出来る限り平易なものを使用させていただくように執筆陣にはお願いをしました。(ところどころかなり難解なところもありますが(;;)、出来栄は自画自賛、手前味噌、我田引水ではありますが、自信を持って「これは良い本です」と言える書物になりました。この本の中身や研修の基本的な考え方には行動障害のある方を「困った人」という整理にはしていません。むしろ様々な残念な環境や状況や条件において二次的に行動障害になってしまっても、支援の質を高めることでかなり軽減できるという考え方を採用しています。このテキストを活用して、多くの方が行動障害の方の支援の質を高めていただければと思います。

10月に長岡で行われた研修では、まだまだ修正や表現の仕方で工夫しなければならない点もありましたが、私としてはそれなりの手応えを感じることができました。最初は戸惑っていた受講生の皆さんの顔つきが変わり、グループワークでは積極的な意見が飛び交い、修了書を受け取った時には心なしか(気のせいかもしれませんが)精悍な印象を受けました。

障害のある方の虐待の約80%は知的障害のある方が被害者です。うち深刻な虐待案件と認定される方の多くは行動障害のある方とされています。虐待の理由は「支援方法が分からなかった」「表出する行動障害を前にしてかづくで押さえてしまった」「研修らしい研修を受けてこなかった」というものが大半を占めます。行動障害者と虐待と適正な支援の関係が強く指摘されたこともあり、今回の研修が全分野対応となったことが背景にあります。

ただ、行動障害のある方の支援は本当に難しく、研修を受けたからといってすぐに「バッチリです」となるわけではありません。取り組みがその日のうちにたちまち効果が出るものでもありません。地道なデータ取りと、それに基づく評価は口で言うのは簡単ですが大変な手間と労力がかかります。根拠に基づいた支援なのにうまくいかないこともたくさんあります。ご本人が言葉を持たずに、特殊な行動やコミュニケーションを活用する方が大変に多いので、そのメッセージの受け取りは困難を極めます。常に何かを予測しながら、予期せぬ事態にも備えて、効果が出るかどうか分からない取り組みをするのは、周囲が思うほど簡単ではありません。忍耐と強い精神力と、そして何より障害のある方を「困った人」ではなく「困っている人」と受け止め、寄り添ってアプローチする人間科学を超えた深い愛情も必要だと思っています。関われる人材、関わりたいと思う人材は正直なところ潤沢にいるわけではありません。残念ながら、知識を持っていて、支援者側が「やりたい」と意気込んで、それがうまく叶わないこともたくさんあります。そういう意味では他の介護技術よりも「淘汰」が生まれやすい援助技術分野であることも否定はできません。

そういう一定のハードルがあるものの、日々、行動障害のある方の向き合いの時間はやってきます。取り組みは待たなしです。どうかこの研修を通じて、一人でも多くの方が行動障害のある方の支援にやりがいを見出し、その魅力に引き込まれればいいなと感じています。

